

ゴクラクジ 極楽寺 鳳至郡常月内の小字。

ゴクラクジ 極楽寺 珠洲郡法住寺(部落名)に在つて、眞言宗法住寺に屬する塔司であつたが、慶應年中に廢絶した。

ゴクラクバシ 極楽橋 金澤城内本丸と二丸との堺の空堀に架けた橋で、それを渡り本丸へ登る段を雁木坂といふた。此の橋名は、當城創立以前からの古名で、往昔本丸に金澤御坊のあつた頃、土民等その地を上品上生の藁として尊敬し、そこに參詣する橋であるから極楽橋と名付けたと傳へる。

ゴクラクバシ 極楽橋 金澤の橋名。東御坊町(今横安江町)から西御坊町(今五寶町)へ往く間の橋で、東西本願寺別院の間に在つたため俗に極楽橋と呼んだものであらう。藩政中は密構堀の橋であつた爲、橋爪に番人の家があつた。

コクラネチバカマ 小倉ねぢ袴 一册。藤田克章が百人一首に擬した狂歌を一頁ごとに書き、その子容齋が十一二歳の頃描き添へた狂歌が加へてある。同じ狂歌の寫本で、もちり百人一首と題したのもあるが、それは挿藪が異なつてゐる。

コケイシヨウジュン 虎溪正淳 石川郡野洲宗大乗寺十二代の住持。法を提室智剛に嗣ぎ、天文五年提室の寂後大乗寺に主となり、承天寺九代を兼ねた。弘治元年乙卯二月二日歿。

コゲツイン 孤月院 加賀藩主第三代前田利常の子鶴丸の法號。詳しくは孤月院禪瑠涼秋童子。

ゴケニン 御家人 加賀藩では與力、御歩。

足輕等、凡そ三品の士以下の給祿人を總稱して御家人といふこともあつた。

コケン 古檢 ↓ケンチ 檢地。

コケンエネベン 古言衣延辨 一册。奥村榮實著。此の書は五十音の阿行のエと夜行のエと別音なることを説いたものである。自序に文政十年平のときと武とあるのは、榮實の一名である。

コケンドウ 五間堂 能美郡板津郷に屬する部落。

ゴゴ 五五 ↓サカジリヤゴゴ 坂尻屋五五。

ゴゴウトウ 五香湯 藩の老臣奥村氏の家士村山氏の傳法で、産前産後の妙藥として發賣せられてゐた。石川郡北廣岡村の五香湯は之を傳へたものであるが、一味少いといはれる。村山氏は看板を出さず、門の屋根を藥莖として、それを山里から來る者の目じるしとしてあつた。

ゴゴウブンコウ 梧桐文稿 津田鳳卿の文集である。大野郷訪古遊記・椋部考古遊記・遊梅田洞記・遊三國嶺記・猿谷郷遊記など、著者の考證に屬する文も多い。

ゴゴウヤカヘ 五香屋嘉兵衛 石川郡北廣岡の人。幼名和利市、休哉と號した。少より漢學を金澤三社高島水翁に學びて、莊子の研究に力を致し、遂に獨學を以て最も能く支那の釋官小説を解した。大正九年七月二十七日歿、享年五十八。

ゴコクイン 護國院 加賀藩主第六代前田吉徳の法號。詳しくは護國院佛鑑法性大居士。ゴコクコウゴネンビヨウ 護國公御年表 三册。有澤貞庸の撰。前田吉徳の年表である

が、享保五年までに止つてゐる。

ゴコクコウネンブ 護國公年譜 十二冊又は七冊。木村兵衛著。享保八年五月九日前田吉徳の繼統から、二十年十二月晦日までの記録であり、又御部屋住年表として、吉徳誕生以後の記録が一冊附録となつてゐる。

ゴコクコウネンブツイカ 護國公年譜追加一册。森田良郷著。前田吉徳の享保二十一年(元文元年)から、延享二年卒去に至るまでの記録である。

ゴコクジ 護國寺 能美郡五國寺にあつた寺院。白山記に中宮八院の中に護國寺を擧げて、輕海郷に屬するとするもので、源平盛衰記では南四ヶ寺の中に數へてゐる。寶永誌に、五國寺村に寺屋敷跡があるとある。この村の白山社は護國寺の鎮守であつたらう。

ゴコクジ 五國寺 能美郡輕海郷に在る部落。郷村名義抄に、古へ五國寺があつたから村名を得たとある。五國寺は護國寺である。

ゴコクジイナリシヤ 五穀寺稻荷社 能美郡小松原町にあつた。正保元年山伏行藏坊に前田利常から城内に在つた稻荷の神體を預けられて奉祀したに初る。後別當は本山派の山伏で五穀寺といふたが、明治の後復飾し、神社を護國神社と稱した。

ゴコクシヨウモン 後刻證文 後刻證文は金澤の米仲買座に屬する銀仲の運用したもので、後刻手形とも後刻銀とも言ふた。この手形は極めて古くから起り、或る一定の期日に商品又は金銭を受渡する契約を以て發行するを本來の性質とするが、米仲買や銀仲の間で種々の目的に利用せられた。後刻證文を略して後刻とも言ひ、『高岡屋武助儀、四十貫目

計之後刻有之、一向致方無之』など、使用した例もある。

ゴゴシヨウ 子小將 ↓オクゴシヨウ 奥小將。

ゴゴシヨウ 小小將 ↓オクゴシヨウ 奥小將。ゴゴシヨウバンガシラ 小小將番頭 ↓オクゴシヨウバンガシラ 奥小將番頭。

ゴゴシヨウラドリ 兒小姓 覽永中に至つては世態の漸く寛縦に流れた結果、藩侯近侍の兒小姓に稱を練習せしめることが行はれた。同十七年前田利常が將軍徳川家光をその江戸邸に招請せし時にも兒小姓稱を觀覽に供し、その後家光の上野南光坊に臨んだ時、及び酒井讃岐守邸に赴いた時にも、並びに老中の命によつて利常は之を出演せしめ、金澤に於いては、利常の在國して年製の禮を受け終つた時、能樂と共に兒小姓稱を演ぜしめ、諸士を初め神職僧侶に觀覽せしめたことがある。兒小姓は小々將又は子小將と書くものと同じい。

ゴゴモンギ 五國問議 一册。元文元年有澤武貞著。治平の際に於いて兵法を修行する輩が、戦時の心得として豫め知り置くべきこと五ヶ條を擧げて論議したもの。

ココロマカセ こゝろまかせ 一册。金澤の俳人後川編。巻頭に芭蕉から曲水に宛てた尺牘を載せ、その中に『住つかぬ旅のこゝろや燈炬燵』の句があるから題名を採つたのであらう。希因門の諸家の句があり、巻尾に乙由・希因の句評がある。寶曆十二三年の著と見えるが、序跋刊記は無い。

コサ 吳薩 ↓キムシロ 關薩。